Akio Nagasawa Gallery Ginza
グループ展

－リリアン・バスマン、ヴィヴィアン・マイヤー、ウィリアム・クライン、
オロール・ドゥ・ラ・モリヌリ、サラ・ムーン、須田一政、野村佐紀子、稲嶺啓一

1 Lillian Bassman, *Anne Saint Marie, Chanel Advertising Campaign*, 1958 printed later, Gelatin silver print

このたび Akio Nagasawa Gallery Ginza では、8名の作家によるグループ展を開催いたします。

本展では、今後個展を予定しているリリアン・バスマンをはじめ、
これまで弊廊にて紹介をしてきた作家たちの作品をご紹介いたします。

それぞれ異なる視点と表現によって生み出された作品群を、ぜひこの機会にご高覧ください。

開催概要

● 参加作家：リリアン・バスマン、ヴィヴィアン・マイヤー、ウィリアム・クライン、
オロール・ドゥ・ラ・モリヌリ、サラ・ムーン、須田一政、野村佐紀子、稲嶺啓一（順不同）

● 会期：2026年7月8日（水）～ 8月1日（土）
火曜～土曜　11:00－19:00 ※土曜日は13:00－14:00 CLOSED
休廊日：日曜、月曜、祝日

● 会場：Akio Nagasawa Gallery Ginza [map]
東京都中央区銀座4-9-5 銀昭ビル6F　TEL：03-6264-3670

● オフィシャルページ　https://www.akionagasawa.com/exhibition/group-show-2607/

《参加作家略歴》

■ リリアン・バスマン（Lillian Bassman, 1917–2012）

20世紀を代表するアメリカのファッション写真家。『Harper's Bazaar』『Junior Bazaar』で活躍し、柔らかな階調と詩的なモノクローム表現で独自のスタイルを確立した。1990年代に初期作品が再評価され、世界各地で展覧会や作品集が刊行されるなど、国際的な評価を確立した。

■ ヴィヴィアン・マイヤー（Vivian Maier, 1926–2009）

シカゴで約40年間ベビーシッターとして働く傍ら、余暇を使ってストリート写真を撮影したアマチュア写真家。生前は作品を発表することなく無名のまま生涯を閉じたが、没後にネガが発見・公開され、2013年公開のドキュメンタリー映画『ヴィヴィアン・マイヤーを探して』を機に世界的な注目を集め、現在では世界各地の美術館やギャラリーで作品が紹介されている。

■ ウィリアム・クライン（William Klein, 1928–2022）

20世紀を代表する写真家・映画監督。1955年よりファッション写真家として活動を始め、『ニューヨーク』（1956）をはじめとする革新的な写真集で写真表現に新たな地平を切り開いた。映画監督としても活躍し、1990年代以降は世界各地で大規模な回顧展が開催されるなど、写真、ファッション、映画の各分野に多大な影響を与え続けた。

■ オロール・ドゥ・ラ・モリヌリ（Aurore de La Morinerie, 1962–）

1962年、フランス・サン＝ロー生まれ。ファッションデザインを学んだ後、書道や中国絵画の影響を取り入れた独自の表現を確立。エルメスやシャネルをはじめとするメゾンや世界的企業、新聞・雑誌などに作品を提供するほか、美術館での展覧会やパリ市立ガリエラ美術館への作品収蔵など、国際的に高い評価を得ている。現在はパリを拠点に活動。
作家オフィシャルサイト　Instagram

■ サラ・ムーン（Sarah Moon, 1941–）

1941年フランス生まれ。モデルとして活動した後、1970年より写真家として本格的なキャリアを開始。ファッション誌やブランド広告、映像作品など幅広い分野で活躍し、夢の中の物語を思わせる幻想的な作品で世界的な人気を博す。カンヌ広告フィルムフェスティバル金獅子賞やナダール賞などを受賞し、日本でも何必館・京都現代美術館などで展覧会が開催されている。
Instagram

■ 須田一政（Issei Suda, 1940–2019）

1940年東京都生まれ。1967年より寺山修司率いる演劇実験室「天井桟敷」の専属カメラマンを務め、1971年からフリーランスとして活動。『風姿花伝』で日本写真協会新人賞を受賞するなど数々の賞に輝き、日本写真界を代表する写真家として高い評価を得た。現実と非現実の狭間を捉えた独自の作品は近年海外でも高く評価され、Akio Nagasawa Publishingより代表作を含む多数の写真集が刊行されている。
作家オフィシャルサイト

■ 野村佐紀子（Sakiko Nomura, 1967–）

1967年山口県下関市生まれ。九州産業大学卒業後、1991年より荒木経惟に師事。1993年の初個展以来、国内外で精力的に作品を発表し、2015年のアルル国際写真フェスティバル「Another Language」展、2025年のスペイン・マドリッド、Fundación MAPFREでの個展「Tender Is the Night」などを通して国際的な評価を確立した。Akio Nagasawa Publishingより『黒闇』『ノクターン』をはじめ多数の写真集を刊行している。
作家オフィシャルサイト　Instagram

■ 稲嶺啓一（Keiichi Inamine）

沖縄県出身の写真家。1983年に「クリエイターズ」を立ち上げ、東風終（こちしゅん）名義で写真集を出版。1994年に東風写真事務所を設立し、『月の日』『一瞬の肖像』などを通して、日本人の身体美や生命の神秘を独自の美意識で表現してきた。2000年以降は全国各地のライフセーバーや祭りを撮影し、一貫して「美」の本質を探求し続けている。

《広報・ご取材に関するお問い合わせ》

AKIO NAGASAWA Gallery｜Publishing（担当：後藤）goto@akionagasawa.com

《広報用画像》ご希望の画像番号をお申し付けください。

2

Vivian Maier *0143304. Untitled, Self-portrait*, 1953 printed later, Gelatin silver print

3

Issei Suda *Ueno Tokyo from Fushikaden,* 1975 printed in 2012, Gelatin silver print

4

Sakiko Nomura *Lirio*, 2025, Lambda print